

令和6年2月27日



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター九州育種場



熊本市立力合小学校

りきごう

力合小シンボルツリー「トネリコ」の後継樹が里帰り

りんぼく

ー林木遺伝子銀行110番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー

ポイント

熊本市立力合小学校のシンボルツリーである「トネリコ」の後継樹の苗木が、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 九州育種場から力合小学校へ里帰りし、記念植樹されます。

概要

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 九州育種場（熊本県合志市）では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、所有者等からの要請により後継樹を増殖してお返し（里帰り）する「林木遺伝子銀行110番」という取組を行っています。

今回は、熊本市立力合小学校から九州育種場が増殖の要請を受け、同校のシンボルツリーである「トネリコ」の後継樹として、さし木によって増殖し育てた苗木が里帰りし、記念植樹されます。

日時：令和6年3月5日（火）10時10分

場所：熊本市立力合小学校（熊本県熊本市南区刈草2丁目10番1号）

問い合わせ先

○国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター九州育種場

事業責任者：遺伝資源管理課 課長 柏木 学
担当者：収集管理係長 猪寫 真由美
広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 川部 美奈子

Tel：096-242-3151 Fax：096-242-3150

○熊本市立力合小学校

担当者：力合小学校 校長 馬場 康弘

Tel：096-357-9417 Fax：096-311-3510

本資料は、熊本県政記者クラブに配布しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 326 件の要請があり、248 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 4 年度末）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

今回里帰りする後継樹の親木は、熊本市立力合小学校のシンボルツリーである「トネリコ」です。

大正 14 年（1925 年）に同校児童の保護者から児童の卒業記念に苗木が学校に寄贈、植栽され、幹周り約 3m、樹高は約 14.3m と 3 階建ての校舎を超える程に大きくなっていました。学校のシンボルツリーとして、創立 140 周年を記念して作曲された「トネリコの歌」を放送委員会の子供たちが毎日校内放送で流すほど、地域の方々も含め多くの人に親しまれ、大切に守られてきました。しかし、樹幹の腐食により倒れる危険性があつたため、令和 3 年 11 月にやむを得ず伐採されました。

令和 3 年 10 月に力合小学校から九州育種場へ後継樹の増殖が要請され、当育種場の温室においてさし木で増殖を実施し、5 本の苗木を育成することができました。このうち 2 本が令和 6 年 3 月 5 日に力合小学校に里帰りし、力合小学校の児童代表と教職員の手により記念植樹されることとなりました。

写真



力合小学校シンボルツリーの「トネリコ」



里帰りを待つ苗木（令和 6 年 1 月時点）